

令和元年度

千葉市健康づくり推進協議会  
第1回8020運動推進部会  
議 事 録

保健福祉局健康部健康支援課

## 令和元年度千葉市健康づくり推進協議会第1回8020運動推進部会議事録

### 1 会議の名称

令和元年度千葉市健康づくり推進協議会第1回8020運動推進部会

### 2 開催日時

令和2年1月31日（金） 午後7時から午後9時08分

### 3 開催場所

千葉市美浜区幸町1-3-9

千葉市総合保健医療センター 2階 健康学習室

### 4 出席者

#### (1) 委員

岡部明子委員、小川順子委員、河野功委員、斉藤浩司委員、杉崎幸子委員、  
関根務委員、中嶋のり子委員、藤田興一委員、堀川早苗委員、山田幸子委員  
(委員12名中10名出席)

※欠席委員 一戸達也委員、渡邊茂委員

#### (2) 事務局

今泉健康部長、前嶋保健福祉総務課保健師活動推進担当課長、柘見幼保支援課幼児教育・  
保育政策担当課長、阿部幼保運営課課長補佐、及川中央保健福祉センター健康課長、  
太刀川保健体育課課長補佐、阿部健康支援課長、大場健康支援課検診推進担当課長、  
高橋健康支援課課長補佐、酒寄健康支援課嘱託歯科医師

### 5 議題

- (1) 部会長及び副部会長の選出
- (2) 千葉市の歯科保健の現状と取組みについて
- (3) 健康づくりに関する広報・啓発について
- (4) その他

### 6 議事の概要

#### (1) 部会長及び副部会長の選出

委員の互選により、斉藤委員が部会長に、関根委員が副部会長に選出された。

(2) 千葉市の歯科保健の現状と、取組みについて

事務局と各関係機関・団体から活動報告を行い、各委員の意見を聞いた。

(3) 健康づくりに関する広報・啓発について

健康部より、人生100年時代をテーマとした具体的な取組みについて報告があった。

(4) その他

次年度開催について事務局より報告があった。

## 7 会議経過

議事に先立ち、事務局から資料の確認、会議の公開及び会議録の承認方法、会議の成立、委員及び職員の紹介を行った。

(1) 部会長及び副部会長の選出

委員の互選により、斉藤委員が会長に、関根委員が副部会長に選出された。

(2) 千葉市の歯科保健の現状と取組みについて

### (斉藤部会長)

議題2「千葉市の歯科保健の現状と取組みについて」、事務局から資料の説明をお願いいたします。

### (酒寄歯科医師)

健康支援課嘱託歯科医師の酒寄でございます。私のほうから「千葉市民の歯・口腔の状況」について各種健診や事業等から得られたデータをもとにお話をさせていただきます。前方のスクリーンをご覧ください。まず、千葉市民の歯・口の状況といたしましてご覧の1から6までの項目についてお話をさせていただきます。まず妊産婦歯科健診についてです。妊産婦歯科健診の受診率の推移について、平成21年から平成30年度までの10年間の受診率の推移をグラフに示しています。青いラインにつきましては妊婦歯科健診、赤のラインにつきましては産婦歯科健診の受診率を示してあります。平成30年度におきましては、妊婦歯科健診は33%、産婦歯科健診は27%の方が受診されております。健診を始めました10年前、平成21年よりの推移として、受診率は徐々に上がってきている状況にあります。続きまして、1歳6か月児と3歳児健康診査の結果です。1歳6か月児および3歳児健診でのう蝕有病者率の推移を示してあります。青のラインが1歳6か月児、赤のラインが3歳児のう蝕有病者率の推移です。いずれの年齢においても有病者率は減少の傾向にあります。平成30年度においては1歳6か月児健診では1.8%、3歳児健診では12.8%のう蝕有病者率となっております。次の参考資料ですが、全国的に見てこれがどういう状況にあるかということです。平成29年度の政令市、全国20の政令市の1歳6か月児と3歳児のう蝕有病者率を比較したものです。1歳6か月児において、千葉市は平成29年度は2.1%と全体で見ますと政令市の中でワースト4位という状況でした。3歳児においても、15%という状況で、平均よりもう蝕有病者率が高い状況にあります。続いて、これは1人平均のう蝕歯数を示したグラフであります。上が1歳6か月児、下が3歳児です。1歳6か月児のほうで小さくて見にくいのですが、青い棒の方が全体、1歳6か月児全体の1人平均のう蝕歯数、赤い棒はう蝕を持っている1歳6か月児の1人平均のう蝕歯数を示してあります。全体としては、1人平均う蝕歯数は減少の傾向にあるのですが、う蝕を持っているお子さんだけを見ますと、やや増加の傾向がうかがえる状況にあります。全体として減ってはいるのですが、う蝕を持っている方一人一人が持つむし歯の数というのは、変わってない

かあるいは少し増えている状況があるのかもしれませんが。同じ事は3歳児の方でも言えるわけですが、これも同じように青い棒が1人平均う蝕歯数、赤がう蝕を持っているお子さんの1人平均う蝕歯数です。青で示した全体の数値は減少の傾向にあるのですが、赤で示したう蝕有病者の1人平均のう蝕歯数についてはあまり変化がない状況で、横ばいの状況が続いております。これについて、資料2の一番右側、健やか未来都市ちばプランの目標値および課題という欄がございます。この中で1歳6か月児健診と3歳児健診についての課題等が書いてあります。先ほど申しましたように、う蝕有病者率は減少しているのですが、う蝕有病者の1人平均う蝕歯数が増加している、これはう蝕のある子どもとない子どもとの差が広がっていることがうかがえる状況にあります。これは1歳6か月児も3歳児も同様の傾向にあると言えます。う蝕につきまして、3歳児健診においてフッ化物歯面塗布の経験をアンケートで聞いております。平成30年におきましては、43%のお子さんがフッ化物歯面塗布を経験しているという状況にありました。平成17年の27.1%から時点から、平成30年度で43.8%まで増加傾向を示してこれがう蝕の減少に一役買っている点はあるかと思われまます。続きまして、12歳児の学校歯科健診より、12歳児の1人平均う蝕歯数の推移を示しております。平成24年度から平成30年度までの学校歯科健診におきまして、12歳児の1人平均う蝕歯数です。現在、平成30年度の時点におきまして、12歳児の1人平均う蝕歯数は0.58本という状況になりました。平成24年の時点では1人平均が1本を超えていたのですが、25年の時点で1本を切り、その後減少の結果、平成30年では0.58本という状況にありました。この状況について、千葉県内ではどのような状況かというのが次のグラフで示してあります。千葉県の児童生徒定期健康診断等の結果から作成したグラフですが、平成30年度の千葉県内の市町村別の12歳の1人平均う蝕歯数です。現在千葉市におきましては、県全体の平均0.65のやや下のところに位置しています。続きまして成人の状況移ります。歯周病検診から、まず受診率の状況を年次推移でお示しいたします。平成13年に歯周病検診が開始され平成30年まで続いております。その中で、対象年齢や負担金などの変遷もございました。その中で、平成30年度におきましては、それまで40歳、50歳、60歳、70歳と10歳刻みを対象としていたのを、40歳、45歳と5歳刻みに対象を拡大しております。また、負担金についても1,000円から500円に値下げして検診を実施しました。ですが平成30年度においては、全体の受診率が4.8%という状況で、平成29年から大分受診率の減少が見られています。これについて、対象となった各年齢ごとの状況を次のグラフに示しています。赤いラインが全体の受診率、赤のラインの上に青のラインが一番上に出ておりますが、これが70歳の受診率です。全体の中では70歳の方の受診率が一番高いのですが、40歳や、50歳、比較的若い方の受診が少ない状況にあります。平成30年度は年齢を拡大はしましたが、やや受診率が低下したという状況で、その理由として受診勧奨をそれまで行っていたものを昨年度行わなかったことが一因かと思われまます。その歯周病検診の結果です。進行した歯周炎を有する者の割合について、各年齢ごとに表にしてあります。下から40歳で上が70歳、合計となっております。40歳の方で進行した歯周炎を有していない方の割合が57.4%となっております。この割合は、年齢が上がるごとにだんだん減少して70歳では40%、進行した歯周炎を有している方が70歳では6割に達しているという状況にあります。この歯周病検診の結果から、その後検診の結果を受けて要指導・要精検になった割合を次のグラフに示しております。これも年代別ですが、特に異常がないという方が全体では約9%、各年齢でも大体9%程度、特に異常がなく、その後の治療も必要ないという状況です。ですが、残りの9割の方につきましては、要指導あるいは要精検、特に要精検という方は、各年齢とも6割以上、一番多い年代、特に70歳では7割以上の方が要精検という状況にありました。続いて、介護予防事業から、特に高齢者の口腔機能の向上に関わる事業、その中で得られたデータからお話しいたします。千葉市の介護予防事業として、一つは「歯っぴー健口教室」があります。これについては資料1-2、カラー刷牙で案内のチラシ等が入っております。口腔機能の維持改善、それからモチベーションの向上のために、介護予防事業を行っています。対象は65歳以上の方で、教室に通っていただいて、口腔機能の評価を受けたり、口腔ケアや口腔体操などの講話を聞いたり、

体操を実際に行ったりするものです。もう一つ、「千葉市いきいき体操」という事業もありまして、こちらは高知市が開発しました「いきいき百歳体操」、口腔機能にかかわる「かみかみ百歳体操」を参考に取り組みを行っています。体操のDVDを作成していて、それを見ながら行う筋力運動編とお口の運動編があります。本日は最初にお示しました歯っぴー健口教室において、参加者の口腔機能の評価について分析を行いましたので、その話をいたします。詳しい内容については資料1-2、千葉県の市町村歯科衛生士業務研究収録に投稿した原稿より抜粋したものがお手元にあります。歯っぴー健口教室においては口腔機能の向上について、ガムを噛んで咀嚼力を判定したり、発音を利用して口腔機能がどれだけうまく動かせるかを評価したものです。それに加えて、アンケートを行い、教室で感じたこと、教室に参加して変わったこと等を聞いています。まず、咀嚼力判定ガム、よく噛むと色が変化するガム使用しております。よく噛めるとピンクや赤に変化し、あまり噛めていないと緑や薄ピンクになる、そういうガムがあるのですが、それを用いて各参加者の咀嚼力を判定いたしました。1回目とありますのは教室の一番最初の時点です。4回目とありますのが教室の最終回、どちらも同じ条件でガムを噛み、その色調の変化を判定いたしました。1回目に比べて、この教室が終わった4回目ではよく噛める状況にある参加者の方が増えている状況にありました。続きましてオーラルディアドコキネシスとありますが、パ・タ・カという音を10秒間にどれだけ早く発音できるか、というもので、口腔機能の巧緻性を見るものです。各音、「パ」は唇、「タ」は舌の前方、「カ」は舌の奥のほうでどれだけ動かせるかを見るものです。各音につきまして、グラフの青の棒は教室の1回目、オレンジは教室の最終回4回目に測定をしたものです。いずれの音につきましても4回目では最初に比べて発音する回数が増えており、教室の効果があらわれたと見ていいかと思えます。続いて、教室の最終回にアンケートを行っております。教室の最初に、自分で教室に参加して後にどれだけよくなりたいか、という目標を設定します。その目標の達成についてアンケートをしています。ほぼ全員の方が達成できた、あるいは概ね、少し達成できたという状況にありました。さらに、教室に参加して変わったことという項目は、教室に参加して、どういった点がよくなったか、さらに、どういった点が自分の生活の中で取り入れられたかを聞いております。特に回答者数が多かったのが「お口の機能を高める意欲を持てた」、「お口の手入れの方法が身についた」、さらに「健口体操の仕方が身についた」や「意識してよく噛むようになった」というような、特にモチベーションに関わるものについては非常によくなったと回答した方が多い状況でした。最後にアンケート調査の結果です。毎年5月の最終日曜日に行われておりますヘルシーカムカムにおいて、来場された方の歯や口腔の健康感などについてアンケート調査を行っております。昨年度は115名の方にこのアンケート調査にご協力いただいております。この中で、自身が歯や口の健康についてどう感じているかや、歯や口のことで気になっていることはあるか、さらに歯科健診の受診状況、かかりつけ歯科医院の有無等を聞いております。さらに歯周病との関連について聞いたことがある病気があるかという設問を設定し、歯周病の知識についても聞いています。さらに、平成30年度千葉市WEBアンケートでは、歯と口腔の健康がテーマの一つとなりましたので、その結果についても、ご説明いたします。WEBアンケートは市民局の広報広聴課が実施しております。毎月、二つないし三つのテーマでWEB上でアンケートを実施するものです。2018年3月に「歯と口の健康」、「墓地」、それから「都市アイデンティティー」の三つをテーマに、10日間の期間を設けて、アンケートを行っています。回答者数につきまして795名ということです。結果の詳しい内容につきましては、アンケートのウェブサイトの方で閲覧ができるようになっております。この中で、歯や口の健康感であるとか、それから、かかりつけ歯科医の状況、それから歯周病検診についての設問を設定してました。本日はその中からWEBアンケートとヘルシーカムカムで共通の設問がありますので、その結果についてご説明いたします。まず、自身の歯や口の健康についてどう感じているか、健康感について聞いたものです。表はWEBアンケートの回答が上、ヘルシーカムカムが下になっております。ご自身の歯や口の状況について満足している方、あるいは概ね満足している方は40%前後でした。「やや不満があるが困ることではない」がどちらのアンケー

トでも4割程度、さらに「現在困っていることがある」という方は15%から22%でした。特に「歯や口のことで気になっていること」について、両方のアンケートで共通して多かったのが、「歯と歯の間に食べ物がはさまる」でした。それ他に歯並びであるとか、口臭について気になっているという回答が多く見られました。さらに、この1年の間に歯科健診を受診したか、治療ではなく、健診、健康状態を確認するための受診をしたかですが、WEBアンケートの方が若干高く66%、ヘルシーカムカムにおいても55%の方が歯科健診を受診していました。さらに、かかりつけの歯科医院があるかどうかでは、WEBアンケートで8割、ヘルシーカムカムでは7割の方がかかりつけの歯科医院を持っているという回答でした。さらに歯周病との関連について、例えば糖尿病など、関連性がある疾患あるいは関連性が示唆される疾患がメディア等を通して、いろいろ出ていますが、それについて聞いたことがあるものは何かという設問です。糖尿病については、メディアなどでも広く出ていることもあって、多くの方が聞いたことがある、さらに心疾患との関連についても3割から5割近くの方が聞いたことがあるという状況でした。以上で千葉市民の歯・口腔の状況についての説明を終わります。

#### (斉藤部会長)

ありがとうございました。資料には記載がされておきませんが、昨年度の部会で保健医療大学に歯周病予防についてアプローチしていると伺っていますが、今年度何か報告はありますでしょうか。

#### (酒寄歯科医師)

はい、資料3をご覧ください。昨年度の部会の中でお話をしていますが、若い世代を対象にした歯科保健対策推進の必要性ということで、千葉県立保健医療大学にご協力をいただき、対策を考えているところです。歯周病については先ほども検診の結果等を示しましたが有病率が非常に高い疾患です。現在自分の歯を有する高齢者は非常に増えているのですが、歯周病については今後も重要な高齢期の健康課題になると見込まれます。そのため、さらなる予防対策の推進が求められるものです。ですが、歯周病検診は千葉市におきましては40歳から現在5歳刻みの方が対象になっておりますが、20歳代、30歳代については現在法定の歯科健診がなく、例えば事業所等での検診等も行われておりませんので、非常にアプローチが手薄になっています。この世代に対して何らかの歯科保健対策を推進する必要があるということで、若い世代を対象にどのようなことができるか、そういう中で、千葉県立保健医療大学にご協力いただき、お口の健康ボランティアという事業を進めているところです。現在千葉市内にある保健医療系の大学、歯科衛生学科を有しているということでお話をしたところ、歯科衛生学科にボランティアのサークルがあり、そこの学生の方7名に参加していただきました。実際何をするかというと、特に20歳代の者に対して、歯周病に関する知識の普及啓発を図るためにどのようなことをするか、例えば、歯周病に関する知識、それから受診勧奨する媒体を作成するであるとか、歯や口の健康について、どのような知識を持っているかアンケート調査を行っております。こちらは歯周病に関する知識の普及啓発のため、それから歯科健診の受診を勧奨するために作成していただいたポスターです。口腔と全身の健康の関わりについて、それから健康な歯を保つためにどのようなことをすればいいかということについて、このポスターを作成していただきました。さらに、歯や口腔の健康意識調査のためのアンケートを行いました。一つはGoogleフォームを利用し、Web上でアンケートを行いました。対象は大学生および20歳代の方、今回143名の方に回答いただいております。さらに質問紙調査も行いました。先ほどお示ししました歯周病の知識の普及啓発それから受診勧奨についての2種類のポスターを見て、どのような感想を持ったかについて、このアンケートで聞いています。こちらのアンケートは千葉県立保健医療大学の学生、看護学科、歯科衛生学科の方が回答しております。本来でしたら大学の学園祭で来場された一般の方に回答していただきたかったのですが、今年の台風19号の影響で学園祭が中止となったため、学内の学生だけの回答となっております。まずWebアンケートの結果です。現在、自分の歯や口についてどのように感じているか、「満足している」それから「概ね満足している」という方が40数パーセント、「やや不満があるが特に困るほどでない」

が40%、実際に「困っていることがある」は14%という状況でした。歯や口について気になること、更に興味があることについてですが、歯の色であるとか歯並びであるとか、特に見た目について気になっているという方が半数近くいました。それから、4分の1の方が歯の間に物が挟まる、それから口臭があるといったという状況にありました。回答した方が大学生、18歳から大体20歳代前半の方が主だったので、どちらかという目で見るとか、口臭であるとかといった回答が多くなっていました。さらにかかりつけの歯科医院が現在あるか、ということ。「ある」と答えた方が65%でした。遠方から来て千葉市内に住んでいる方もいますので、実家のある地元にかかりつけ歯科医院がある場合も中には含まれています。続いて過去1年間に歯科健診を受診したことがある方ですが、「はい」が67.1%、20歳代の方でも67%の方が歯科健診を受診しています。これについては歯科健診を受診していない方には、受診していない理由を聞いています。特に多かったのが「歯医者が遠い」、それから「面倒くさい」、続いて「時間がない」、という回答でした。「お金がかかる」が意外に少なく、それから「困っていることがないので受診する必要がない」については、回答した方はいませんでした。金銭的なものよりはどちらかという、歯科医院に行く手間のために受診しないという状況にあるかと思われます。続いては質問紙アンケートです。先ほどお話ししましたように回答者は看護学科および歯科衛生学科の学生です。かかりつけ歯科医は58.6%、約6割の方が持っているという回答でした。さらに先ほどお話ししました普及啓発用のポスターを見てどう感じたかという設問について、「歯磨きが大事」であるとか、「定期健診に行こう」、さらには「歯周病になるのは怖い」といった回答が多く見られました。歯科衛生学科の学生が回答者に多かったのですが、意外に「歯磨き」と「補助用具を使おう」という回答が少ない印象を受けました。歯科衛生学科の学生なので、もうすでに当たり前のことになっていて、この部分の回答者が少なかったのかもしれないと思われました。今年度はこの普及啓発の媒体の作成とアンケート調査、この2点の活動でした。次年度は、このアンケートや、活動の振り返りなどをしてさらに若い世代に向けてどのようなアプローチができるかを考えていく予定です。私からは以上です。

**(齊藤部会長)**

ありがとうございました。ただいま事務局から資料1から3までについて説明をいただきました。この後、各関係機関からの取組みの報告の後に質疑応答に移りたいと思いますがいかがでしょうか。ご意見ご質問がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。では資料4の「関係機関・団体における歯・口腔の健康の推進についての取組み(平成30年度)」をご覧ください。この表は歯・口腔の健康の推進について、各関係機関が健やか未来都市ちばプランにおける三つの課題、むし歯予防、歯周病予防、口腔機能の低下の予防という課題別に取り組んでいただいている点について取りまとめたものでございます。それでは、各課題ごとに関係機関で取り組まれている内容について資料に沿ってご報告をお願いいたします。関係機関ごとに、むし歯予防、歯周病予防、口腔機能の低下の予防について順番にご報告してください。では、千葉県歯科衛生士会、岡部委員からお願いいたします。

**(岡部委員)**

千葉県歯科衛生士会におきましては、むし歯予防に関しては、千葉県からの委託事業ですが、フッ化物洗口普及のための研修会を、これは成人の施設において開催をしております。同じように主に成人の施設になってしまうのですが、フッ化物洗口やフッ化物配合歯磨き剤を知っていただくという普及啓発と合わせて、口腔衛生指導を実施しています。障害児の施設におきましては、大学の先生や歯科医師会にご協力いただく形で、フッ化物の塗布も行ってしております。歯周病予防に関しては、コープみらいさんが実施しております「きやっせ物産展」において、歯周病予防のパンフレットの配布等とブラッシング等の簡単な相談を実施しております。それから、事業所の中で歯科健診を希望されているところには歯科医師会と連携し歯科保健指導を実施しています。口腔機能の向上に関しては、様々なイベントを通して、千葉県歯科衛生士会が作成しております「スマイルアップ千葉体操」や「はっきり言葉エクササイズ」を使って普及啓発に務めています。千葉市外になってしまうのですが、障害者施設において口腔機能の向

上を行う支援をしたり、介護予防事業においては、口腔機能の向上の支援ということで関わりを持たせていただいています。以上です。

**(斉藤部会長)**

ありがとうございました。それでは次に、千葉市幼稚園協会、小川委員お願いいたします。

**(小川委員)**

はい、協会としては、むし歯予防という課題にだけ取り組んでおります。協会加盟園それぞれが歯磨き指導や保護者への知識の普及等を行っております。園によって軽重ありますが、どの園でも取り組んでおります。特にこういう千葉市のよい歯をつくろうというものをお願いしておりますので、就学前の年長の子どもは特に歯が生え変わる時期ですので、歯磨きの汚れがどのくらい残っているか等を確認し指導しております。それから、幼稚園協会の加盟園を対象に、フッ化物洗口の指導について研修会を実施し、洗口によるむし歯予防の普及啓発と推進を行っております。ただ、加盟園は82園ありますけれども、実際に毎日園でフッ化物洗口を実施しているのは今のところ5園ということで、なかなか進んでいない状況です。以上です。

**(斉藤部会長)**

ありがとうございました。では次に、千葉商工会議所の河野委員お願いいたします。

**(河野委員)**

商工会議所の河野です。私ども商工会議所といたしましては、むし歯予防あるいは歯周病について、会員さん向けに商工会議所の会報誌であります「夢シティちば」という会報誌に記載・登載する、あるいはホームページ上で定期健診等について周知を図るという形で会員さん向けにお知らせをするという取り組みが主になっております。その一方といいますか、商工会議所の中に医療介護を業とする会員さんがいらっしゃいますので、その医療介護部会という部会活動の中で各分野の先生に定期的に健康経営というものを視点に置いた部分で寄稿をしていただきまして、会員さん向けに周知をさせていただいております。そういった意味で歯科の部分についてはそんなに多くはありませんが、周知を図らせていただいているところでございます。その中で、質問を一つしたいのですが、よろしいでしょうか。先ほど千葉市さんでアンケート調査をしていただいた歯っぴー健口教室の部分で、この教室を開催して、効果が非常によかったというような考察があります。教室をやった対象者の238名の方、これはアンケート調査なのかもしれませんが、この238人というのは、千葉市の中でどの位の介護施設数で行っているのか、今現在この教室は、この対象者以外でもこの歯っぴー健口教室的な、体操といいますか、トレーニングを取り入れている介護施設がどのくらいあるのか、もし現状でわかっていたら教えていただきたいなと思っております。

**(斉藤部会長)**

質疑応答は後でありますから、その時までには回答があれば、もし今回答できるようでしたらわかる場所はありますか。

**(酒寄歯科医師)**

この歯っぴー健口健康教室ですが、実施しているのは各区の健康課で行っているものです。各区健康課において教室を開催して参加者を募って、各区の歯科衛生士や看護師などが指導やお話をするとか、体操するというようなものです。今回の238名という人数ですが、実はこれは分析評価ができた方が238名ということです。1回目と4回目に参加して最初と最後の評価を受けた方、例えば途中で来れなくなってしまったり、やめてしまった方もいらっしゃるのです。そういう方は分析の対象になってないのでこのような人数になっています。

**(河野委員)**

ありがとうございました。なぜこんな質問したかという、この教室の体操にすごく効果があるという説明を聞いて、私もそう感じているのですけれども、商工会議所の中でも介護施設を設けようとする企業さんがかなりいらっしゃいますので、効果があるのであれば、こういう体操を、そういう施設のほうでも取り入れてもらえるような広報活動を私ども商工会議所としてもお手伝いできることがあればさせていただきたいという思いをこめて質問させていただき

ました。どうもありがとうございました。

**(酒寄歯科医師)**

この歯っぴー健口教室ですが、ライフステージごとの事業実績の資料2の全体の参加者という項目で、そこに歯っぴー健口教室は、平成30年度は99回で1,145人の方が参加と書いてあります。同じくいきいき体操は62回実施して963人の方が参加という状況でした。

**(斉藤部会長)**

ありがとうございます。よろしいでしょうか、河野委員。では次に、千葉県栄養士会、杉崎委員、よろしくお願いいたします。

**(杉崎委員)**

栄養士会といたしましては口腔機能の維持・向上、低下予防のところの活動をさせていただいています。千葉市の食育の集い等のイベントのときに、咀嚼に関するよく噛んで食べようというリーフレットを配布して、対象者に説明をするというような活動、それから年に2回千葉市内で食育健康料理教室を開催しておりますので、そのときに、野菜たっぷりメニューにしておりますので、よくかんで食べようという形で咀嚼の大切さについての説明を講話という形で実施しています。それから千葉県栄養士会全体としまして生涯教育研修会を開催しております、そこで毎年口腔機能に関する講演をいれさせていただいております、栄養士会の会員がこの口腔機能の維持向上について理解が図れるように進めています。あと、摂食機能と書いてしまったのはちょっと私の報告の仕方が適切ではなかったのですけれども、介護からいろいろな食べるものについての食事指導、それから様々なところに質問をしたいというような窓口として、ホームページ上に摂食介護指導に対する質問コーナーを設けております。ここは私どもだけでは回答できない部分につきましては、それぞれの専門職種の方のご意見をいただいて、質問者に適切な内容をお示しするようなそういう事業を取り組んでおります。千葉県栄養士会、それから千葉地域事業部としての活動は以上です。

**(斉藤部会長)**

ありがとうございました。では次に、千葉市歯科医師会、堀川委員よろしくお願いいたします。

**(堀川委員)**

はい、千葉市歯科医師会といたしましては、まずむし歯予防ですが、フッ化物歯面塗布を実施している歯科医院とフッ化物洗口剤を取り扱っている歯科医院をホームページで紹介しています。また、ヘルシーカムカムというイベントがあるのですが、そのイベント等でフッ化物応用についてのチラシやリーフレットを配布しております。歯周病予防については、歯周病検診啓発のポスターを作成して会員の各診療所に配布し、掲示したこと、また千葉市薬剤師会のご協力で市内の薬局さんにもポスターを張っていただきました。これは30年度のみで、昨年31年、令和元年度はしていないのですが、30年度にこれを行いました。健康づくり大会等のイベントにおいては歯科相談コーナーを設け、そこで歯周病予防の普及啓発をしております。口腔機能に関しては記載していないのですが、介護予防事業の講演会などを通して、しっかり噛めるお口が認知症の予防になりますよということで機能も大事ですよということに触れて皆さんにお伝えをしております。以上です。

**(斉藤部会長)**

ありがとうございました。次に千葉市の取り組みについて事務局の説明をお願いいたします。まず、幼保支援課からご報告をお願いいたします。

**(栞見幼保支援課担当課長)**

はい、幼保支援課です。まず、むし歯予防と歯周病予防と共通でございますが、学校保健安全法に基づく私立幼稚園の歯科健診、これについては健康診断は歯科も内科も含めて、両方対象ですが、それに対する補助を千葉市で行っております。30年度は68の私立幼稚園、9,684人に対して補助を行い、決算額870万5,000円となっております。またフッ化物洗口については先ほど幼稚園協会様からお話ございましたが、私どもでは5つの幼稚園さん、こども園さんが実施しているということで把握しております。以上でございます。

**(齊藤部会長)**

ありがとうございました。続きまして、幼保運営課お願いいたします。

**(阿部幼保運営課課長補佐)**

はい。幼保運営課からご報告させていただきます。公立保育所ではむし歯予防ということで、歯科健診について報告いたします。保育所での歯科健診は2歳以上のお子さんを対象としています。例年6月前後に1回目の歯科健診を実施し、健診率が低い保育所は10月前後に追加の歯科健診を実施しています。今年度は受診児童数5,071名に対して、罹患者数は922名、罹患率は18.2%となっています。嘱託歯科医による健診後には個別に健診結果の通知と、むし歯のあるお子さんには受診のお勧めをしています。また3歳以上のお子さんは保育所の給食後に歯磨きを実施しています。歯磨きを開始する際や歯磨きをする習慣の意識づけの際には、看護師や保育士等による刷掃指導を実施しています。看護師が不在の保育所もありますので、幼保運営課の嘱託の看護師が出張する場合があります。指導後には歯磨きをするという意識が継続するように、また正しく磨けているかを確認する意味でも、担任が歯磨きの場について確認やみとりを行うようにしています。子どもたちの刷掃指導とあわせて保護者への啓発も行っています。啓発活動というのは保育所ごとで違うのですが、月の保健だよりで配布をしたり、掲示板でお知らせをしています。またフッ化物洗口につきまして、公立の認定こども園2か所で行っており、今年度で4年目になりました。今年度は各認定こども園の年長児23名、計46名に実施しています。4月の懇談会時には、幸認定こども園の嘱託歯科医の水谷先生、嘱託歯科医師から指導を受けた千城台東認定こども園の看護師がフッ化物洗口についての説明を保護者に行い、それから開始をしています。実際に保護者の方にもフッ化物洗口がどのようなものかを体験していただいています。子どもたちは年中時からまず水でのぶくぶくうがいの練習をし、年長児になってから朝のホームルームの中でフッ化物洗口を実施しています。お子さんによってはぶくぶくうがいができず、飲み込んでしまうお子さんもいるので、個別に対応し、水でのぶくぶくうがいができるようになってから開始しています。今のところ両園とも特に困っていることはないということで聞いております。以上です。

**(齊藤部会長)**

ありがとうございました。次は保健体育課お願いいたします。

**(太刀川保健体育課課長補佐)**

保健体育課の取り組みをご報告させていただきます。むし歯予防への取り組み事業といたしまして保健体育課で大きく5つの事業を行っています。まず、「定期健康診断」です。子どもたちの健康の保持増進を図るため、小中特別支援学校において学校歯科医により行っています。その結果を各家庭に渡し、自分の子どもの口腔内の状況を知るとともに治療に努めております。次に、「口腔衛生指導」です。これは歯科衛生士が直接学校を訪問し、学級ごとに指導を実施しています。児童生徒が口腔衛生の重要性を理解するとともに、むし歯や歯周病予防に取り組めるように歯磨きの仕方を学ぶものです。平成30年度は小学校109校、中学校49校、特別支援学校3校で実施いたしました。3つ目は「学校歯科保健推進事業」です。歯と口の健康週間に合わせた口の健康に関する作品募集や学校歯科保健の活動を表彰することによって口腔保健に関する正しい知識を普及啓発し、児童生徒の健康の保持増進に寄与することを目的としています。具体的には、定期健康診断において学校歯科医が口腔内の清掃状態が良好なこと、むし歯がないなどの審査基準に基づいて選出した児童生徒を表彰する「健歯児童生徒表彰」や学校歯科保健において熱心に活動している学校を選出する「学校歯科保健活動推進校表彰」等を行っています。4つ目は「歯と口の健康づくり啓発事業」です。平成4年度から実施している事業ですが、平成30年度は中学校2校とそれぞれの学区内の小学校4校において、歯科医師による保健指導を学級ごとに実施しました。位相差顕微鏡を使って口腔内の菌を見たりむし歯のなりやすさや、歯肉からの出血など、学年の発達段階に応じた内容で行ったりしています。実施した学校からは、児童生徒の口腔衛生に関する知識や意識の向上ばかりでなく、教職員の意識の向上も図れるなど大変高い評価をいただいています。最後に「むし歯予防フッ化物洗口事業」

です。これは千葉市歯科医師会協力のもと、平成 27 年度にモデル校 3 校で開始し、28、29、30 年度、それぞれ 1 校ずつ増で、昨年は 6 校で実施をしています。令和元年度も 1 校増で、現在 7 校で希望する 1～6 年生の児童が実施しています。それぞれの学校の状況に合わせて実施していますが、児童も大変熱心に取り組んでいます。歯周病の取り組みについては先ほどのむし歯予防への取り組みで出たものと重複するところが多いため、簡単に説明いたします。定期健康診断では、歯肉の状態について診察を行い、要観察・要精検等の結果に応じて学校歯科医や養護教諭による歯磨きの指導や受診勧奨を行っています。また、口腔衛生指導では児童生徒に鏡で歯肉の観察を行ってもらい、自分の口腔内の状態を知るきっかけ作りをして歯周病予防の歯磨きの指導を行っています。学校歯科保健推進事業ですが、先ほどお話ししました歯・口の健康に関する作品募集は、歯周病予防についての作品も対象としており、学校歯科保健推進校表彰の選考においても歯周病予防への取り組みも重視しています。最後に「歯と口の健康づくり啓発事業」では、小学校の高学年、中学生の指導内容に歯周病予防を盛り込んでいます。その他の取り組みとして「歯医者さんの喫煙防止教室」について説明いたします。こちらは、たばこに興味を持ち始める中学生の時期に、口腔内および全身の疾患を歯科医師の視点から紹介することで、将来喫煙をしないという選択ができるように保健教育を行っています。平成 30 年度は 3 校 425 人に実施いたしました。喫煙防止教育ならびに児童喫煙防止に関する教育の一環として、今後もより多くの子どもたちを対象に実施していきたいと考えています。なお、今年度歯科医師会のご協力をいただき、この歯医者さんの喫煙防止教室へ提示しているスライドの一部を千葉市立中学校すべての学校に配布をし、喫煙防止の更なる充実を図りました。以上でございます。

**(斉藤部会長)**

ありがとうございました。次は健康支援課、よろしく願いいたします。

**(阿部健康支援課長)**

健康支援課です。まずはむし歯予防の取り組みとして、資料 2「ライフステージごとの事業実績」に記載の各種健診や相談事業を実施しています。また、記載はしておりませんが、先ほど少し話題に出ました、幼稚園、認定こども園、保育所、保育園等へと未就学児を対象としてフッ化物洗口実施のための支援を行っています。資料 5 ですが、フッ化物洗口を実施したいという職員説明用の資料の一部として、こういった資料を使って、むし歯の状況、要因と対策、フッ化物の有用性・安全性について説明を行い、フッ化物洗口やフッ化物応用についての正しい知識の普及にも努めております。フッ化物洗口については幼稚園ですとか、さらに実施する施設が増えていくといいと思っており、実施に向けて私たち健康支援課としても支援していきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。次に歯周病予防の取り組みですが、成人の健康教育や健康相談をはじめ、歯周病検診等で早期発見・早期啓発に取り組んでいます。健やか未来都市ちばプランの中間報告の結果を資料 2 の高齢者の枠の一番右のところに入れてありますが、40 代、60 代のいずれの年代も歯周病の罹患率が増加しています。先ほどの千葉市の状況の説明の中にもありましたが、さらに若い世代、20 代の歯肉の炎症所見を有する人の割合もここには記載はありませんが、プランのアンケート調査を行ったときに、そういった方もふえているというような状況です。そういったことあり、20 歳代の若い世代に対しても、先ほど資料 3 での説明の通り、保健医療大学と共同で歯周病予防について啓発を行っているところです。口腔機能の維持向上・低下予防への取り組みについては、歯科相談を初め、健康教育講演会、機能の維持向上に特化した歯っぴー健口教室、いきいき体操、また歯科医師会のご協力をいただき、歯科医院で機能チェックができる口腔ケア事業を行っています。そして最後その他になりますけれども、口腔がん検診については歯科医師会にご協力をいただき、協力歯科医院で実施しています。また幾つかイベントを開催していますが、そういったイベント等で口腔の健康に関しても周知啓発をしているところです。以上になります。

**(斉藤部会長)**

ありがとうございました。それでは質疑応答に移ります。資料 1 から 5 までで何かあります

でしょうか。

(岡部委員)

はい。まず、子どもの部分のところですが、1歳半健診や3歳児健診の未受診者、その方々に対して、実際そのお子さんたちが歯科健診に結びついているのかということと、それから保護者等によります仕上げ磨きを実施していないという方に対してどのような取り組みをされているのか、その辺を教えていただければありがたいと思います。

(齊藤部会長)

事務局よろしいでしょうか。

(阿部健康支援課長)

まず未受診のお子さんということで、各種健診、4か月健診、1歳半健診、3歳児健診について、集団健診においでにならなかった方については、その未受診であった人たちの家庭を訪問する職員がおりますので、その職員が家庭訪問をしています。その中で、次の健診にご案内をして健診に繋がっている方もおりますし、場合によってはお会いするタイミングがその健診対象のぎりぎりになってしまった場合は、健診というよりも家庭訪問で相談に乗らせていただいたりする場合があります。歯については家庭訪問でその集団健診に間に合わなかった場合には、市の歯科健診としては受けられない場合がありますが、そういったときには、お子さんの状況によっては歯科の受診を勧める場合がありますし、健康課には歯科衛生士がおりますので、状況によっては歯科衛生士が訪問して歯についての相談に対応するということもございます。

(岡部委員)

そういう受診ができなかったりとか、仕上げ磨きをしていないというところで、例えば幼稚園とか保育園とかと繋がりを持っていたら、家庭訪問よりももう少し状況を把握した上での関わりが持てると、今、子どもの虐待の問題があることから、虐待を受けた子どもの多くは、ほとんど歯科健診を受けた経験がないということで、千葉県歯科医師会が今年度より千葉県内の児童相談所において定期的に歯科検診を実施するという事業を開始しているものだと私は把握しておりますので、ぜひ関連機関との連携の中で、口腔の状態が発見の一つになるということも言われていますので、各課の連携をよろしくお願いしたいと思います。

(齊藤部会長)

事務局お願いします。

(阿部健康支援課長)

少し伝え漏れもございましたけれども、幼稚園、保育所等に普段入っているお子さんで、そういった機関と連携がとれていて、そこでお会いできるお子さんも確かにおります。ですので、私たちもなるべく、集団健診の場でお会いできなかったとしても、ほかの集団の施設でお会いできる機会がある場合には、そういったところとの連携もさらに図っていくような形で活動していますし、それは必要だと感じております。ありがとうございます。

(齊藤部会長)

よろしいですか。ほかにご質問。

(関根副部会長)

医師会の関根です。先ほど歯科医師会の取り組みの中で、歯周病の啓発ポスター、薬剤師会の機関、クリニック、薬局に置いてもらうというようなことで言われましたが、その数年前に実は医師会と歯科医師会は連携しまして、各医師会の診療所にも歯周病のポスターは貼ってあると思うんです。ですから医師会も何もしないわけではないよというのが一つ。それともう一つ、この啓発ポスターは大変いいと思うんですが、例えば歯周病と糖尿病っていうのは、歯周病があると糖尿病になりますよ、歯周病になると肺炎になりますよ、というふうなことだと思うんですが、何でそうなるのかっていう説明がどこかで必要だと思うんですね。例えば脳梗塞っていうふうに、歯周病から脳梗塞にいくのもなぜ歯で頭にいつってしまうのかという話になると思うんですね。ですから、やっぱり何かその辺のところをうまく一般市民の方にいただいて、歯周病っていうのは単に歯茎が腫れて歯が落ちこちるだけの病気じゃないんだよと

いうことをきちんと知らせるためには、やっぱり、今、なぜ歯周病が怖いのか、ただ単にこういう病気が起こりますっていうことだけではご納得いただけないだろうと思うんですね。ですから、それは医師会の方の努力が必要だろうとは思いますが。全身病ですからね。そういう点で、行政とか歯科医師会とか、もう少し歯周病について、歯周病が何で怖いのか、ということアピールしないと歯周病検診が4%という体たらくになってしまうだろうと思うんですね。ですから、その辺のところ、もうちょっと啓発するような何らかのパンフレットにしないと、ただ単に歯周病から糖尿病にいきますよ、脳梗塞にいきますよ、と言っても何でそうなるかわからないと市民の方は納得いただけないのではないかと思います。

(堀川委員)

先ほどのポスターに関しましては、これは30年度の事業ということで、医師会からはいろいろ協力いただいておりますので、30年度は薬剤師会にお願いしたということです。糖尿病と全身疾患との関連ですが、糖尿病はいろいろな全身疾患と関係があるのですが、特に糖尿病に関しては取り上げていまして、各区で年に1回必ず講演会を開いております。糖尿病の予備軍の方とか、地域の住民の方に、歯周病との関連についてとか、そういうことについて詳しく講演をしております。認知症についても先ほどの介護予防事業のところ、よく噛めるお口だと認知症が予防できますよとか、各区で年に1回必ずしてございまして、他にもいろいろと、例えば脳梗塞とか、そういうこととお口の関係もあるのですが、今のところは糖尿病と認知症を主に取り上げて、皆様に講演をしているという状況です。

(関根副部長)

それこそ何らかの形で、講演会だけじゃなくて、例えば市の広報紙とかそういうものを利用するとかですね、そういったような形で市民の皆さんに知ってもらうことが必要なんじゃないかなと思いますね。

(堀川委員)

ありがとうございます。

(斉藤部長)

ありがとうございます。私、歯科医師会代表できていまして、4.8%ということで、歯周病検診がかなり受診率が下がっておりますので、5歳刻みに去年からにさせていただいたのにこの状態だと会としても、大変心苦しいですので、ぜひ医師会の先生、また、他の先生方、関係各位の方のところにもし置けるようでしたらポスター等、会の方に一言言っていただければと思いますのでよろしく願いいたします。あとは事務局から。

(大場健康支援課検診担当課長)

はい、歯周病検診担当として歯科医師会だけのことではないと思っております。受診率については再勧奨していたときには8%、9%までいっていたのですが、30年度は対象者を拡大することと、自己負担額を1,000円から500円に変えたこと、多分先生がおっしゃったポスターは市が作ったものと同じではないかと思うのですが、そのポスターで30年度は啓発をしてみました。ところが受診率が伸びなかったもので、今年は再勧奨をしていますので、全員には再勧奨はできないのですが、5万人にしています。ですので、多少伸びてくることを期待している状況です。ポスターに関しては、昨年度歯周病検診のポスターは市医師会の方にも貼っていただいておりますので、医師会の方に歯周病を貼っていただき、歯科医師会の方にピロリ菌を貼っていただいているようにお互い交換をして、どちらも利用している市民にわかるようにということで、両者貼っていただけるように工夫して、ご協力いただいているところです。

(斉藤部長)

ありがとうございます。行政に作っていただいたポスターを張っております。よろしく願いいたします。ほかにご質問ご意見は、藤田委員。

(藤田委員)

公募委員の藤田です。資料1-1の5ページ6ページですが、1歳6か月と3歳児のむし歯について、フッ化物塗布について年々増加して、43.8%、5割近くが塗布されています。先ほ

どの幼稚園協会の小川委員からも、フッ化物洗口を行っていきますとご説明がありました。ただその効果が、5ページの資料ですとむし歯があまり減ってない。若干増え気味であるというご説明だったのですが、フッ化物の塗布があまり効果がないのでしょうか。その辺の事情がどうなっているのかご質問させていただきたいと思ひます。

(齊藤部会長)

どうでしょうか、事務局。

(酒寄歯科医師)

う蝕のお子さんは確実に減ってきている状況にはあります。ただ、う蝕を持っているお子さんの中ではむし歯がまだ多い状況にあるという印象です。全体としては減少の傾向にあるのですが、う蝕を持っているお子さんの中ではいまだに多い状況にあると。その中でフッ化物歯面塗布が増えているというのは全体の中で見ると効果があるのではないかと。ただし、半数以上の方は歯面塗布の経験はありませんので、そういう面から見ると、まだ全体の中でそういうのが届いてないということも考えられるかと思ひます。

(藤田委員)

報告では12歳児は減っているとわかったのですが、3歳児、1歳6か月児は全体的に減っているということだったのですね。その辺のグラフがないので、少ししわかりにくいと思ひました。むし歯があんまり減っていないように見えました。

(齊藤部会長)

事務局はよろしいですか、補足説明は。

(阿部健康支援課長)

資料2の一覧表の乳幼児のところで、1歳6か月児健康診査のほうで見ますと、う蝕罹患率については平成29年度は2.1%が平成30年度では1.8%ということで、う蝕のお子さんは減っています。ただ1人平均う蝕、むし歯の数についてはちょっと増えてしまっている。3歳児健診も同様で、う蝕有病者率15.0%が平成30年度は12.8%と減っているのですが、う蝕有病者の1人平均う蝕数、1人が持っているむし歯の本数は少し増えてしまっているという状況でした。ですので、むし歯を持っている子は減っているけれど、むし歯を持っている子はむし歯の本数が増えています。先ほど、岡部委員からもありましたが、なかなかそういったお手入れの環境にないお子さんがあまりよくない状況が続いてしまっているのかなという印象です。

(齊藤部会長)

山田委員、お願いします。

(山田委員)

今のご質問やご説明と関連しますが、乳幼児の対策事業を含め、大変よくやっておいでになると思ひながら資料2を拝見しました。1歳6か月児や3歳児の健診についてですが、赤ちゃんは生まれたときは、むし歯の原因であるミュータンス菌を持っていない、7ヶ月、8か月とで歯が生えてきて、1歳6か月で10本ぐらい、3歳で20本になるのだと思ひられます。親とか周りの人が自分の使った同じ箸やコップを使って食べさせたり飲ませたりすることで、唾液の中のミュータンス菌を子どもに移してしまっていると思ひます。妊婦さんとか母親学級の赤ちゃんを持っているお母さんの教育と同様に、大学生やこれからお母さんになる可能性のある人たちの教育も大切です。赤ちゃんにむし歯菌を移さないようにすれば、むし歯を減らすことは可能です。一遍ミュータンスが入ってしまったら、これだけの事業をして努力しても比較的効果が高い。どこに原因があるのかなと思ひたときに、岡部委員のお話のように、要は仕上げ磨きをフォローしているかどうかです。一番直接的に関係するお母さんがどう対応していくかであって、母親の持つ意識が大事になってくるのかなと思ひました。むし歯の予防は、1歳半から3歳までが一番大事だと思ひます。乳幼児期にむし歯を作らなければ、かなりいい結果がライフステージの後半に向かって出ると思ひます。3歳までの期間は子どもが上手に歯が磨けない時期です。一般の市民から考えると、簡単ですぐできて、どこでもできるという方法を望んでいます。適切なアイデアを考えていただけたら、私たちは頑張りましょうとロコミで伝える

こともできるかと思います。

**(阿部健康支援課長)**

ありがとうございました。今おっしゃられたように、資料2の妊産婦のところになりますけれども、母親&父親学級に歯科衛生士も入っていきまして、妊娠中に参加者のお母さん、お父さんにはむし歯予防について、うつるんだよということはお伝えしています。ただこの母親&父親学級にすべての妊婦さんが来るわけではありません。その後、実際赤ちゃんが生まれてからも4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の中でも、むし歯菌はうつるんだよというのは繰り返しお伝えしているのですが、どうしても私たちもお会いできる方が限られてしまっていて、どうしても会えない方については、今山田委員がおっしゃったように、ぜひ皆さん方がお会いするところでこうだよということと一緒に伝えていただくと本当に大変うれしいなと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

**(齊藤部会長)**

よろしいでしょうか。じゃ、先ほど手が挙がりました中嶋委員お願いいたします。

**(中嶋委員)**

歯周病検診ですが、受診率が8%ということですが、小学校のうちから歯周病に関心を持たせることが大切と考えます。例えば自分の学校では、養護の先生が春の歯科健診で軽い歯周病だということがわかった児童を昼休みに3、4人ずつ呼んで歯磨きの正しい仕方を指導しています。そうしたことを通して、歯周病について小学校のうちから関心を高めていくような取組はそれぞれの工夫ですが、各学校で工夫してやっていることをお伝えいたします。

**(齊藤部会長)**

ありがとうございます。そうですね、いろいろDMFTも本数は減っているもので、12歳児もかなり効果は出ていると思います。フッ化洗口といいますかフッ化物自体の応用はむし歯にならないというのは今エビデンスとして出ていますので、やっぱり今、行政の方の支援校でも教育委員会のほうからでも、今7校やっておりますけれども、もっともっと洗口事業が増えれば、この数値はもっと下がると思います。あと、先ほど中嶋委員からもありましたけれども、刷牙指導で習慣をつくるということがすごく大事だと思いますので、その辺は行政と歯科医師会としっかりやっていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。他にご質問はございますでしょうか。よろしいですか。

**(岡部委員)**

関根副部会長からも、歯周病と全身との関係ということで、とてもいい取り上げ方をしていただいたと思います。今、歯科衛生士も歯科医師も、医師会の糖尿病対策推進会議と一緒に歯周病、特に重度歯周病が糖尿病の悪化に、歯周病が悪化すると糖尿病が重度化しやすいという知識の普及に努めておりますので、ぜひかかりつけ歯科を説明していただくときに、定期的に必ず定期受診が必要なんだということを強調していただかないと、一旦改善した歯周病もまた放置すれば中度歯周病、重度歯周病と悪化すれば、全身との関係はより大きくなってしまいますので、かかりつけ歯科を持とうというだけではなくて、定期受診の大切さも広報に入れていただくと大変ありがたいと思っております。

**(齊藤部会長)**

要望でよろしいですか。では、要望ということでよろしく願いいたします。ほかに何かご質問は。藤田委員。

**(藤田委員)**

この部会が、8020運動ということですが、資料2で高齢者のところを見ますと、この8020、80歳で20本の自分の歯を持つということですが、これに対する成果がまだ記載がないように思います。この辺は今どうなっているのでしょうか。

**(齊藤部会長)**

はい、岡部委員。

**(岡部委員)**

私から答えていいかどうかかわからないのですが、実際に8020っていうのは重度歯周病があったとしても、歯が実際にお口にあれば1本と数えてしまうので、根だけ残っていても数えてしまうのですけど。今、だいたい60%近く来ているので全く歯がないという方はすごく数が減っております。そこで重要になってくるのが噛むというこの機能をどういうふうに使っているかが課題に挙がってまして、それが今度認知症予防とかと結びついたり、介護予防というところで結びついておりますので、県内の市町村において住民主体の介護予防に取り組む中で、その辺のところを中心にやっていただいていることもありますので、ぜひ専門職中心だけではなく、藤田委員や山田委員のように関心の高い方がぜひ中心となって、そういったことを推進していただけたら、さらに8020がいい方向に、よく噛める8020が増えてくると思いますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

**(関根副会長)**

私は、先ほど言ったように8020協議会に一番最初から参加しているのですが、一番最初に参加したときに、歯科医師会は確か湯浅会長さんだったと思うんですけど、ハチマルゼロロク(8006)でやってたんです。その当時は、今この間もちよっと歯科医師会の方と話をし、実は私8020の委員なんですよって話をしたら、今はほとんどクリアされてんじゃないのっていうふうな話をしてました。ということは、この10年ぐらいになりますかね、この間に8020というスローガンがある程度クリアされてきたんじゃないかなと。ということで、今までよく噛めると、そのために歯を残そうということだったのが、歯を失う原因が歯周病が一番多いということもあって、だんだん立ち位置が歯周病の方に変化してきてるんじゃないかなという感じはします。感想です。

**(斉藤部会長)**

藤田委員、よろしいでしょうか。

**(藤田委員)**

よく噛めるということで、四街道市のほうで、ハチマルニク(8029)運動があります。80歳でも肉が食べられる、という運動をやっています。よく噛めるっていうことで、だいぶクリアされてきていると理解いたしました。

**(斉藤部会)**

ありがとうございます。ほかに何かご意見ないでしょうか。はい。

**(山田委員)**

ごく初歩的な質問で恐縮ですが、資料2中にある歯の数が小数点以下である意味はなんですか。0.5本という歯はないですから戸惑いながら資料見ていました。岡部委員のお話では完全な形でない場合も1本に数えるということでしたが、0.5本とは頼りない状態の歯があるということですか。

**(酒寄歯科医師)**

0.5本といった小数点以下については平均値なので小数点以下が出てきてしまっています。先ほどからもお話があるように、歯が頭を出していれば1本と数えるという、確かにその通りでして、80歳で20本歯が残っていれば、うまく噛めて食べるというようなイメージでスローガンをつくったと聞いています。やはり歯周病でグラグラになってうまく食べられない状態で20本残っているというのはいい状態ではないので、きちんと歯としての機能を保って、最低ラインの20本は残しましょうと考えていただければいいかなと思います。

**(阿部健康支援課長)**

例えば歯が欠けたら0.5本と数えるとかそういうことではないんです。むし歯が1本あるお子さんが1人いた、むし歯が2本あるお子さんが3人いた、むし歯が4本あるお子さんが1人いた時に、そのむし歯の本数を人数で割ると整数にはならず、小数点が出るということです。

**(山田委員)**

歯の状態に関係なく、歯が残っていればどんな歯でも1本として数え、それを全体の人数で

割るから小数点以下が出るだけということですか。わかりました。ありがとうございます。

(斉藤部会長)

よろしいでしょうか。一応8020の関根委員も言っておりますが、8020の20本は子どもの乳歯の数なのです。乳歯の数があれば大人と同じものが食べられるということで8020運動というのが最初に始まりました。なので、高齢者になっても20本あれば子どもと一緒に、普通の生活ができるだろうということで始まったのがこの8020運動です。先ほどの統計というのは、今ほとんどのお子さんはむし歯がなくて、10人の中に1人の子がいると0.1本という形になると思うので、この1本以下というのは、かなりむし歯が少ない状況だと思っていただければ一番わかりやすいかなと思います。大分時間も過ぎましたけれど、よろしいですか。それでは時間もございませんので質疑応答を終了させていただいて次に移りたいと思います。ご報告いただきました事業の継続はもとより、歯科保健の推進に当たり今後の展望を皆様からお聞きしていくところではあります。部会として特に取り組んでいくべき目標についてご意見等ございますでしょうか。健康支援課どうぞ。

(阿部健康支援課長)

今皆さんからいろいろとそれぞれの部署、ご自身の所属するところで、こんなことを取り組んでいるとかこんなことだったらできるというようなお話もたくさんいただきました。健やか未来都市ちばプランの最終評価が令和4年に実施することになるのですが、今本当に話題に出ています歯周疾患予防に関してはなかなかうまくいっていない状況がございますので、ぜひ皆さん方の関わるところでPRしていただいたり、今日出た課題を伝えていただけるといいかなと思っております。先ほど河野委員さんから所属するところで介護施設、介護関係だったり、そういうところに周知できると良いのかなというようなご意見もいただきました。最初の酒寄歯科医師からの話で出てきたいいき体操は、DVDを作っておりますので、実際にその施設関係の方にお渡しすることができるのかとか、またどういうふうに取り組んでもらえるかということなど、ご相談させていただければと思います。よろしく願いいたします。

(斉藤部会長)

ありがとうございます。健康支援課から今歯周疾患予防について話が出ましたが、皆さんいかがでしょうか。各団体で何かご意見ございますか。歯科衛生会ございますか。

(岡部委員)

私も妊産婦健診とかに関わることがあるので、歯科医師の健診の時に、歯科衛生士の、私の行っているところでは少し指導を入れている中で、メインに話すのは歯周病の予防です。そこが生活習慣と結びつくというところで、生活習慣をきちんとすることが、むし歯予防にも子どものむし歯予防にも繋がっていくということで、まずお母さん自身がきちんと管理をしていく、例えば糖分のとり過ぎは歯肉炎にも結びつきますよとか。それから、将来お子さんが生まれた時にお母さんが1日数回の間食をしていると、やはり子どもたちも、間食の多いお子さんはむし歯ができたときに本数が多いお子さんになってしまうリスクがあるということをきちんと説明するようにしています。また歯周病検診でお見えになった方には、重度歯周病の全身への影響というところも、歯科医師とはまた違う立場で歯科衛生士もかかわっていますので、ぜひこれからも歯科医師会とも連携して、また医師会とも連携していけたらと思っておりますので、また関係各位のご指導も仰ぎたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(斉藤部会長)

幼稚園協会さん何かありますでしょうか。

(小川委員)

先ほどもフッ化物洗口ということがありましたが、なかなか進んでいかないということで、おそらく保護者への理解、説明とか理解を求めるとか、それを全体でやっていただく、園ごとでやるというのはとっても大変なことなので、どこかそういう機会でもっていただけて、また幼稚園と小学校とどっちがやるというのもあるので、その地区等を決めていけば、学校に

就学する子どもたちが通っている施設でも進んでやるような形になると思いますので、そういう計画等もどんどん進めていただきたいと思います。

(斉藤部会長)

ありがとうございました。千葉商工会議所のほうから何かありますか。

(河野委員)

はい、今、歯っぴー健口教室の話、体操等の話、お話しいただきましたけれども、会員が健康経営ということに対してはかなり、それぞれ興味を持って健康経営として取り組まれている部分については、会議所としても十分わかっておりますので、今日お話にあった歯っぴー健口教室、あるいは歯周病の関係についても、ただホームページや会報等で周知するだけでなく、会員が直接会える場所等で、そういう内容、本日のこの活動の内容について、しっかりと説明ができるように執行部も取り組んでいきたいと思っておりますので、その際は行政の皆さんの応援ご協力いただきながらしなければならぬと考えますので、今後ともよろしく願いいたします。

(斉藤部会長)

ありがとうございました。千葉県栄養士会からありますでしょうか。

(杉崎委員)

はい、栄養士会の会員は赤ちゃんから高齢者まで様々なところで関係していますので、そういうところでしっかりと噛んで食べる、そういう食事作りを心がけて咀嚼の大事さ、しっかり噛むことで、歯周病予防にも繋がるということを会員自身に自覚してもらって、食事提供の中で広めていけたらいいなと考えております。またいろいろとご指導よろしく願いいたします。

(斉藤部会長)

ありがとうございます。続きまして千葉市小中学校運営協議会、中嶋委員、何かございますでしょうか。

(中嶋委員)

幼稚園協会の方と同じ意見です。もちろんパンフレットなどを各家庭に配ることはご協力はできます。ただ、なかなかそれだけだと関心の高い人は見るけれども、全家庭がというと難しいです。そういう場を設けていただければと思います。

(斉藤部会長)

ありがとうございました。続きまして千葉市歯科医師会から何か。

(堀川委員)

はい。まず歯周病検診のことですが、12月に再勧奨しましたので、少し受診率が上がるかというのを期待しているのですが、改めて結果が出たところで分析をして、どのようにしていったらいいかを考えていきたいと思っております。それから、全身疾患と歯周病の関連についても、今まで糖尿病や認知症に絞ってしまっていたので、幅広く皆様に知っていただけるようなこともしていきたいと思っています。口腔機能についてですが、実は歯科の病名の中に口腔機能に関する病名というのが3年前まではありませんでした。2年前に初めて「口腔機能達不全症」と「口腔機能低下症」という病名が保険収載されて、保険の治療ができるように、治療というか結局指導なのですが、そういうことができるようになってきて、やっと2年たったところで、実はまだまだ歯科界全体での取り組みが始まったばかりというところですので、これからぜひ、歯周病に関してもですが、口腔機能に関しても、皆様のお力を借りて普及啓発をしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(斉藤部会長)

ありがとうございます。今のところを歯科医師会として補足させていただきますが、口腔機能を上げるため、オーラルフレイルという言葉が今すぐ出ておまして、千葉市行政も多分話が出ていて、千葉市歯科医師会、千葉歯科医師会、日本歯科医師会も行っております。派生が、先ほど藤田委員から出ました8029運動は千葉県独自でして、口腔機能がうまくいけばお肉も食べられるという形で栄養を取って長生きしていただきたいところからのオーラルフレイルへの流れが、千葉県では今8029運動、千葉市歯科医師会も協賛しております

けれども、そういう流れで繋がっておりますので、少し補足させていただきました。続きまして、幼保支援課よろしくお願いたします。何かありますか。

**(栞見幼保支援課幼児教育・保育政策担当課長)**

はい。各種の皆様へ啓発、それから周知、情報提供など、私立幼稚園、協会のご協力もいただけたと思いますので、幼稚園などに対するものがございましたらご相談いただけたらと思います。以上でございます。

**(斉藤部会長)**

ありがとうございます。幼保運営課は何かありますでしょうか。

**(阿部幼保運営課課長補佐)**

今いろいろお話をお聞きしまして、公立保育所としても今までやっていることを土台として、これからまた子どもたち、それから保護者に向けた啓蒙、それから保健師やほかの課と連携をとりながらしていけることがあったらと思います。また看護師の方にも報告をしたいと思えます。ありがとうございます。

**(斉藤部会長)**

保健体育課さん

**(太刀川保健体育課課長補佐)**

今後、口腔衛生指導とか歯と口の健康づくり啓発事業の参観に来た保護者等に対して、児童生徒を通じて各家庭に保護者向けの歯周病予防の啓発のプリント等を配布するようなことをしていければというふうに考えております。

**(斉藤部会長)**

ありがとうございます。健康支援課さん、よろしいですか。

**(阿部健康支援課長)**

はい、保健医療大学と共同で若い世代にも取り組み始めておりますが、それをさらに続けていくことと、最初にも話しましたがフッ化物洗口について、これからやっというところには支援することもできますので、また、一緒にいろいろ相談させていただければと思っておりますので、よろしくお願いたします。

**(斉藤部会長)**

ありがとうございました。公募委員の方々に何かご意見ありますか。

**(山田委員)**

大変勉強になりました。

**(斉藤部会長)**

藤田委員。大丈夫ですか。

**(藤田委員)**

はい。

**(関根副部会長)**

医師会のほうから。私、医師会のもとで産業医というのをしています、各企業に回っています。で、これを見ますと30代、40代の方の歯周病検診の受診率が低い。多分30代、40代で歯周病検診を受けるのは自営業の方だろうと思うんですね。サラリーマンの方であれば、会社のほうで経費があるということもあって、ないしは時間がとれないから受けないというように多いと思うんですね。ですから、これからは働き方改革ということもありますが、企業内での歯科健診というものが行われないとまずいのではないかなと。その働きかけを、誰に、どこにすればいいのかはちょっとわかりませんが、そういった形で、会社の中で歯科健診が受けられるようにすると歯周病の発見も随分あるのではないかと思います。幾つか会社をやっていますので、できれば先ほどのポスターみたいなもの、そういったものを会社の目立つところに貼らせてもらおうかと思っていますので、もし余っているポスターがあったらください。

**(斉藤部会長)**

はい、ありがとうございます。事務局およびそれぞれの団体からご意見ありがとうございます。

した。それぞれの取り組み方や、皆さんの普及の仕方、ぜひ頑張ってください本当に少しでも広がっていくことを願いますので、よろしく願いいたします。それでは議題3に移りたいと思います。健康づくりに関する広報・啓発について、健康部よりご報告お願いいたします。

**(今泉健康部長)**

それでは、議題3について説明させていただきます。お手元に2つ資料をお配りしてあります。「健康づくりに関する広報啓発について」、それと「100年を生きる」というイベントのチラシです。まず広報啓発についての方ですけれども、なぜ広報啓発に力を入れるかという目的です。人生100年時代を今迎えておりまして千葉市においても100歳以上の高齢者が350人を超えて、長生きされる方が大変多くなっております。ですがアンケート等をとってみますと、大体自分は何歳ぐらいまで生きるかという、大体皆さん80歳ぐらいとおっしゃる方が多く、実態と市民の意識のずれがあります。実際には本当に長生きする方がふえておりますので、長く生きられるような人生を幸せに健康に暮らすためにはやはりお一人お一人が自分の健康を考えていくという、その意識の醸成が非常に大切だと思っております。そのためには、まずは、普段から広報はしているのですが、特に期間を決めまして今年、来年と集中して広報啓発に力を入れていきたいと思っております。中身について、まずは全体のテーマ「人生100年時代」というのがございます。それと健やか未来都市ちばプランに5つの重点目標があるのですが、絵の中に1から5までありますが、これが重点目標になっていて、この中にそれぞれ細かい取り組みがありまして、歯の健康についてもあるのですが、これらについては何をやっているかというよりも、なるべく多くの人に普段、健診、健康に関心を持たないような方にも気にとめていただけるような印象的な工夫ができないかと思っております。それぞれのコンセプトは下に書いてございますので、お時間のある時にご覧いただければと思います。全体で100年で長いのですけれども、老後が伸びるだけではなくて人生全体が伸びるので、若いうちから健康を意識して幸せな人生を送れるようするにはどうしたらいいかを一人一人考えて欲しいという視点でいきたいと思っております。後ろのほうに「健康大使千葉真一さんの任命」、それからキャッチフレーズ「100年を生きる」などが書いてあります。2枚目のところですね。12月19日に千葉真一さんを健康大使として任命いたしました。千葉真一さんはご高齢の方ですけれども、現役として活躍していらっしゃる、ご高齢でもご活躍しているポジティブなイメージをぜひ、千葉市の健康づくりに生かしていただきたいと思ひ、任命いたしました。それからキャッチフレーズですが、これは「100年を生きる」はそのまま使っております。それとロゴマークですが、これは千葉デザイナー学院の学生さんに案をつくっていただきまして、イベントの時にいらした方の投票と健康づくり推進協議会の役員の方にも投票いただきまして、このピンク色のロゴマークに決めました。キャッチフレーズ・ロゴマーク等を活用して、健康づくりを意識するというような意識付けに使えたらと思っております。いろいろこれから具体的にやっていくのですが、その最初がこのチラシの「100年を生きるダンスイベント」。100年ダンスというダンスをつくりまして、お年寄りからお子さんまでできるようなダンスを今鋭意製作中なのですが、こういうようなイベントで皆さんの注目を集めながら、いろいろところで活用していけたらと思っております。2月22日に中央公園で「100年ダンス公開撮影イベント」をやります。ここで千葉真一さんと、ここに写っているのはハッスルマッスルというユニットですが、この方たちも見えて、市民の方にもたくさん集まっただいて、そこで撮影をして、その動画もこれから啓発に使っていきたいと思っておりますので、ぜひ皆様もご都合がつけば参加していただけるとありがたいと思います。また、それぞれの団体に帰りましたら、こちらについても皆様に周知していただけると大変うれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。

**(齊藤部会長)**

ありがとうございました。

**(河野委員)**

はい。1点だけちょっと確認ですが、2月22日に千葉真一さんの100年を生きるダンスの収

録があるというお話ですが、うちのほうのスケートリンクをこの段階では設置してあるのですが、スペース的なものは、打ち合わせがどうなっていたか、私もちょっと確認しなかったもので、どういう状況になっているのか。

(今泉健康部長)

ちょっと細かいところの状況までは今確認していないのですが、そのあたりは事前に確認した上で進めていると思いますので、大丈夫だと思います。

(河野委員)

申し訳ないですが、なるべく早めに調整をしていただけるようお願いしたいと思います。

(今泉健康部長)

はい。

(斉藤部会長)

ありがとうございます。ほかに何かご質問ございますでしょうか。ないようでしたら、それでは議題4その他ですが、何かありますでしょうか。健康支援課どうぞ。

(阿部健康支援課長)

健康支援課です。本日はたくさんご意見をいただきありがとうございました。次回の部会ですが、来年度に入りまして6月、7月頃に開催したいと考えております。まず決めるにあたって、皆様方の日程調整をさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(斉藤部会長)

ありがとうございます。ほかにないでしょうか。それではほかにないようですので、以上をもちまして本日の審議を終了させていただきます。皆様の活発なご意見で大変長くなりましたが、皆様のご協力を得たおかげでとことんまで審議ができたと思います。皆さんぜひ自分のところに持ち帰って、広めていただきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。なお本日の会議の議事録の作成につきましては事務局および部会長にご一任をお願いいたします。以上で令和元年度第1回8020運動推進部会を閉会いたします。この後は事務局のほうにお返しいたします。

(高橋健康支援課課長補佐)

斉藤部会長さん、関根副部会長さん、長時間にわたりどうもありがとうございました。これもちまして、本日の会議は終了となります。委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。

午後9時08分閉会

令和元年度千葉市健康づくり推進協議会 第1回8020運動推進部会議事録を承認します。

署名人

斉藤 浩司



自著または記名押印